



札幌市長
上田文雄 様

冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致に関する

要 望 書

平成26年11月12日

札幌商工会議所
会頭 高向 巖

冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致に関する要望

1972年の冬季五輪を契機に、札幌は大きく発展を遂げました。

『虹と雪のバラード』の歌詞にある「生まれ変わる札幌の地」を体現するが如く、競技施設ばかりでなく、地下鉄や道路などの交通インフラが整い、地下街や厚生年金会館などオリンピックに合わせて様々な施設も整備されました。世界中から多くの選手や観客、報道関係者が訪れ、大きな経済効果をもたらしたことに加え、都市の知名度も向上しました。単に世界的なスポーツの祭典であったというだけでなく、様々な財産を残し、市民生活の向上にもつながった画期的な事業であり、先人達の取組みに深く敬意を表するものです。

それから40年余りが経過し、閉塞感のある現在、冬季五輪を再び開催することは、有形無形の計り知れない大きな効果を札幌にもたらし、経済成長への起爆剤となるばかりか、魅力あふれる都市に再度生まれ変わるチャンスとなります。

老朽化する五輪施設の更新によりウィンタースポーツの中心都市として様々な競技大会が開催されることはもとより、より一層高齢化が進展する中でバリアフリーに対応する街づくりが進むことが期待され、また、グローバル化の進展の中で、インバウンド増加やおもてなし向上に向けた絶好の機会ともなります。

さらに、五輪開催に向けては、交通インフラの整備に期待が寄せられます。特に2036年開業とされている北海道新幹線の札幌延伸については、現在検討が進められている5年前倒しを上回る早期開業の可能性も高まります。また、円滑な五輪の運営や関係者の移動を支えるために、都心と高速道路を結ぶアクセスの強化や、発着枠にゆとりのない新千歳空港を補完する丘珠空港の機能拡充を実現させる好機となります。

今般、札幌商工会議所では、冬季五輪の開催意義や招致の是非について、会員企業を対象とした調査を実施しました。約8割の企業が冬季五輪の札幌開催について「招致すべき」と回答していることは、地域経済活性化や都市としての札幌の成長につながることを期待していることを反映しているものと思われまます。

札幌市におかれましては、是非、冬季オリンピック・パラリンピックの札幌への招致を決断されますよう、ここに要望申し上げます。